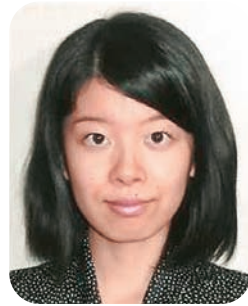


初めての国際会議から得たもの

工学府機械知能工学専攻M2 木崎 美桜



はじめに

2013年11月13日～11月16日に、韓国の大田広域市で開催されたISIS (International Symposium on Advanced Intelligent Systems) に参加しました。初めて訪れた仁川空港の広さに驚きました。

国際会議は、観光地の場合もありますが、旅行ではなかなか訪れることのないような地方都市で開催される場合も多いです。今回の大田は、仁川空港から電車・新幹線・地下鉄を乗り継ぎ、約5時間かかり大変でしたが、どの駅のホームにも、電車が来たところのみ開閉する安全ゲートが設置されており、安全性の高さ



韓国の駅のホーム

に驚きました。そして、込み合う地下鉄内で、大きなスーツケースの横で立っていると、年配の女性が隣に座るよう手招きしてくれました。歴史的・政治的にはいろいろありますが、人の温かさは日本と変わらないなと思いました。

初めての国際会議

学会では、頭部CT・MR画像の

フュージョンのための自動位置合わせ法について、英語で口頭発表を行いました。フュージョンとは、複数の異なる画像を重ね合わせ、1枚の画像に表示させることです。その際に画像の位置合わせが必要ですが、現状では医師が手動で行っているため、画像位置合わせを自動化するシステムの開発を研究目標としています。

国内会議は一度経験していましたが国際会議は初めてだったので、ネイティブの友人や先生のもとへ何度も通い、発表・質疑応答練習を重ねました。そのため本番はリラックスして臨むことができ、自信を持たせてくれるものは練習なのだということとを改めて実感しました。聴講者の方に称賛をいただいた際はとても嬉しかったのですが、複数受けた質問の中で一つだけ、限られた時間内に英語でうまく考えをまとめられないものがありました。発表後に個別にディスカッションを行うことで解決できましたが、次回また国際会議に参加するときには、もっと練習を重ね、プレゼンテーション賞を受賞できるように努力したいです。



発表の様子

後輩に伝えたいこと

練習や本番を通して、人に何かを伝えるときには、やはり気持ちがいちもつていないと伝わらないということとを痛感しました。語学を勉強してどんなに流暢に話せたとしても、棒読みでは何も伝わってきません。語学のみを気を取られずに、言語は違っても自分の言葉に想いをのせて伝えることの大切さをこれからも忘れないでおこうと思いました。

最後に国際会議参加にあたり、経済面で奨学金を援助していただいた明専会、論文執筆に関してご指導いただいた金教授に厚く御礼申し上げます。